

ソーシャルワーク専門職性自己評価表

氏名 _____ 記入年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

各項目に「かなりあてはまる」5点、「ややあてはまる」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまりあてはまらない」2点、「あてはまらない」1点として点数を記入して下さい。

C	点数
1 この仕事を努力して続けることにより自己実現を図れると思う	
2 自分の仕事は、弱い立場の人や権利が侵害されている状態にある人の力になる仕事だと思う	
3 この仕事は他者に献身するという側面をもっていると思う	
4 単に生活の手段としてではなく、仕事に一種の使命感をもっている	
5 この仕事はソーシャルワークの価値を実現するための仕事だと認識している	
6 この仕事は公共の福祉に貢献するものであると思う	
	□

E t	点数
1 自分の所属している職能団体の倫理綱領をよく理解している	
2 ソーシャルワーカーには何故倫理が問われるのか、その理由を理解している	
3 判断に迷うとき、倫理綱領を参照する	
4 所属機関や同僚の非倫理綱領を見過ごすことはできない	
5 いかなる状況にあらうともクライアントの人としての尊厳を守ることを念頭においている	
6 クライアントには、中立・公正な態度で接している	
	□

A	点数
1 他職種と協働するときに裁量権を発揮することができる	
2 ソーシャルワーク援助の進め方を、自分の判断で決定することができる	
3 他者の指示によらず仕事を進めていくことをめざしている	
4 クライアントの自己決定を実現するために必要に応じて援助とチームのなかでイニシアティブがとれる	
5 責任を伴った判断をしなければならない場合がある	
6 開業することもできる仕事である	
	□

K	点数
1 社会福祉学に関する幅広い知識を系統立てて学んでいる	
2 援助の対象となる領域に関する幅広い知識を身につけている	
3 クライエントを理解するための諸理論を学んでいる	
4 幅広く、かつ最新の社会資源の情報を有している	
5 人とそれを取り巻く状況を理解する幅広い知識及び洞察力を有している	
6 複数のソーシャルワークの援助理論を身につけている	

S	点数
1 クライエントとの間で適切な人間関係が築ける	
2 クライエントの置かれた状況やその問題に対してアセスメントを行い、援助計画を立案できる	
3 問題解決の方法について、創造的・効果的に工夫できる	
4 クライエント自身の力を引き出すように心がけている	
5 他職種や同僚とうまく連携し、適切な人間関係を築ける	
6 必要に応じて社会に向かって行動や発言をすることができる	

PA	点数
1 専門職団体に所属している	
2 専門職団体に所属する意味を理解している	
3 専門職団体の提供する教育・研修・現任訓練等のプログラムには、日頃から関心をもっている	
4 必要とあらば所属する専門職団体の活動に協力する用意がある	
5 専門職団体を通してソーシャルワーカー全体のレベルの向上を図ることは大切だと思う	
6 専門職団体に所属することは自己規制につながると思う	

Ed	点数
1 仕事上必要な専門誌や専門書などを定期的に購読している	
2 関連学会に所属している	
3 講演会や研修会にはできるだけ参加している	
4 仕事に関連する最新の情報を入手し、更新するよう心がけている	
5 さまざまなスーパービジョンの機会を活用している	
6 実践をもとにして、論文を書くこともある	

専門性を示す領域

32
20
10
C Et A K S P A Ed

(出典：南彩子・武田加代子『ソーシャルワーク専門職性 自己評価』相川書房、2004 一部改変)